

# 駿府城の石垣の被害

都司 嘉宣

## 1. はじめに

8月19日、今回の地震で石垣の崩壊を生じた駿府城を視察調査し、崩落現場の写真を撮影してきた。駿府城は元来三重の堀に囲まれた構造であったが、天守閣を取り巻く一番内側の堀はほんの一部を残すのみで、すべて「駿府公園」の敷地として埋められた状態で、現在見ることのできるのは、中堀のほぼ全体と、外堀の北部西部、及び南部の一部である。今回の地震による大きな崩壊は外堀南部の2箇所（A点、およびB点）と、中堀の南側（C点）および外堀北側の一部（D点）である。これら4点の位置は2万5千分の一の図上に赤色で示す。なお、中堀北側の一部に沈下による変形が見られる（E点、図には青色で示す）



図1 駿府城の石垣崩落地点（A～D、赤）  
および変形地点（E、青）



図2 ゼンリン社市街地図上にプロットした石垣崩落地点(A~D、赤色)と典型地点(E、青)

## 2. 崩落地点 A (外堀、葵区役所向い部分)

静岡県庁ビルのすぐ南。葵区役所の正面に当たる位置で長さ約30m、高さ約15mの石垣が上端から約9mの上下幅の部分が崩落した。この部分の石組みは比較的緻密であって、石垣の構造そのものとしては堅牢な部類であったと推定される。写真2は、この崩落部を追手門がわから石垣面を見通すように撮影したものであるが、崩落部だけではなく、追手門に近い壁面でも、石と石とのかみ合わせ面の食い違いが生じていることがわかる。



写真1 地点 A の石垣崩落



写真2 地点A 崩落部を、追手門側から石垣壁面を見通した写真。写真手前の石垣面で石同士のかみ合わせがゆるんでいるのがわかる。

### 3. 崩落地点B

この場所は外堀の外側、城下市街側の高さ3 mほどの石垣に生じた崩落である。長さ約8 m程の部分で中間部以下が掘れるように崩落している(写真3)。この上に遊歩道になっており、この部分に通行禁止の措置が執られた。この上部の手すりの部分の部材接合部分に小破損が生じた(写真4)。



写真3 地点B．外堀の市街地側の高さ3 mほどの石垣の崩壊



写真4 地点Bの上部。手すりの接合部が破損している。また、一般の通行が禁止された。

#### 4. 地点C

中堀の県庁庁舎の北側、二の丸橋の東側の高さ約15mの石垣が約30mにわたって崩壊した(写真5)。写真の崩落部の右側の石垣面にも食い違いの発生が観察される。

この崩落地点の両側の石垣壁面を注意深く観察すると、壁面の途中に「孕みだし」を生じている様子を観察することができる(図3、および写真6)。



写真5 地点C、中堀、二の丸橋東側の石垣の崩壊

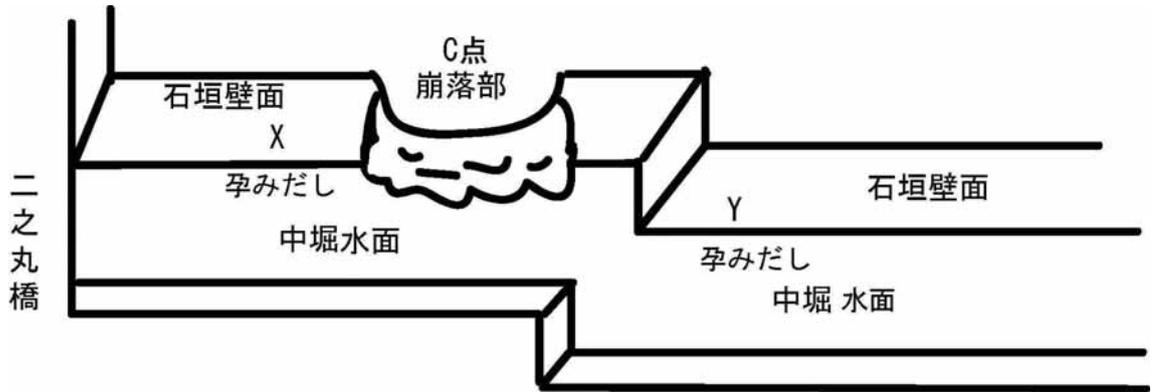


図3 C地点崩落部とその両側の「石垣面の孕みだし」を生じている部分



写真6 地点Cの崩落部の場所の隣接する両側の石垣壁面に「孕みだし」が観察される（赤矢印）

## 5. 北側外堀のD地点

外堀北面では、1箇所約20mの長さにわたって崩落が起きた(写真7)。この部分の石垣は地点Aよりの緻密さに欠け、石同士には不規則な隙間が見られる。また、当落部分の西側壁面(写真7の手前側)には顕著な孕みだしが見られる。さらに、この西側に続く石垣壁面も、崩壊はしなかったが、地震によって石同士のかみ合わせがゆるんだと見られる部分が観察される(写真8)。



写真7 北部外堀の崩落部(地点D)。これに隣り合う西側壁面(写真手前側)には孕みだしが見られる。

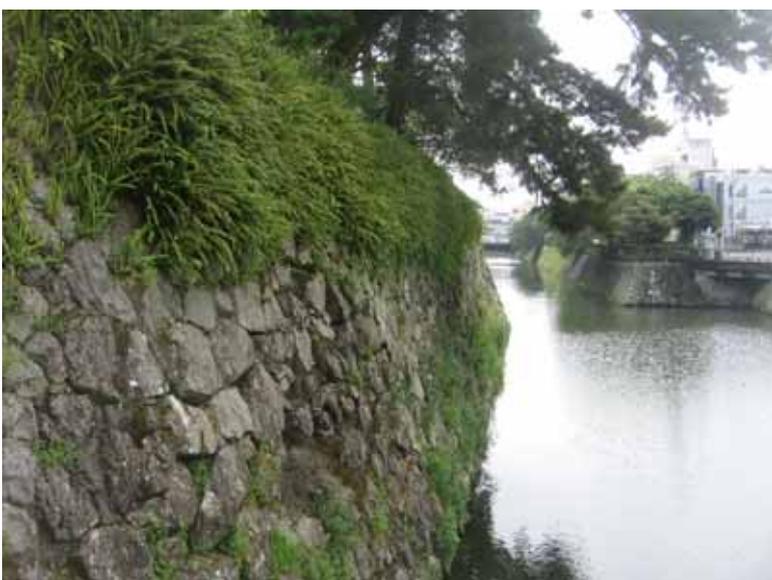


写真8 地点Dの崩落部に続くその西側の石垣壁面、石同士のかみ合わせの乱れが観察される

## 6. 北側中堀の低い石垣の変形部（地点 E）

北側中堀の城の内部側の護岸をなす高さ 2 m ほどの石垣に、地盤の沈下、あるいは石垣のせり出しによると見られる変形が見られた（写真 9）。

